

	2007年	2008年	2009年
①人口:1,340万人(2008年)			
②面積:18万1,035k㎡			
③1人当たりGDP:775米ドル (2009年)			
④実質GDP成長率(%)	10.2	6.5	△2.0
⑤貿易収支(米ドル)	△13億4,300万	△18億200万	△15億4,100万
⑥経常収支(米ドル)	△7億500万	△12億6,000万	△10億5,100万
⑦外貨準備高(米ドル)	16億1,600万	21億6,400万	23億6,700万
⑧対外債務残高(米ドル)	25億7,100万	27億7,300万	31億7,000万
⑨為替レート(1米ドルにつき、 リエル、期中平均)	4,056.17	4,054.17	4,139.33

【出所】①カンボジア計画省、②国連(統計年鑑)、③④IMF(IFS)、④～⑧アジア開発銀行(ADB)

## ■2009年は輸出入ともに減少

アジア開発銀行(ADB)によると、2009年の実質GDP成長率は、2007年の10.2%、2008年の6.5%から、マイナス2.0%へと落ち込んだ。2008年第4四半期に顕在化した世界金融危機のカンボジアへの影響は、当初、他国に比べ軽微であったが、2009年に入り米国向け縫製品輸出の落ち込み、外国人観光客数の減少、建設プロジェクトの中止・延期などが深刻化し、この10年間で初めてのマイナス成長となった。

商業省の統計によると、2009年の輸出は27億9,074万ドル、輸入は37億3,986万ドルであり、前年比それぞれ16.8%減、15.4%減となった。輸出の減少は、カンボジアの輸出の過半を占める米国向けの衣料品が20.8%減となったことが主因である。輸入においても、現地縫製メーカーによる中国からの衣料品原材料の調達が減少したことが大きく影響した。国・地域別の貿易を見ると輸出では、米国が構成比55%を占め1位、以下カナダ、英国、ドイツの順となっている。輸入では中国とベトナムがほぼ同額で1位、2位となっており、香港、タイがこれに続く。

日本の貿易統計(通関ベース)から対日貿易をみると、2009年の日本からカンボジアへの輸出は、編機、クレーンなどの機械類が前年比63.4%減であったことが影響し、39.4%減の1億1,240万ドルとなった。しかし、輸出額の33.6%を占める船舶(主に観光船)は、前年比33.8%増となった。一方、日本のカンボジアからの輸入は、前年比18.3%増の1億4,270万ドルとなった。輸入を品目別にみると、66.9%を占める靴が前年比3.7%減となった一方、31.6%を占める衣料品が前年比138.8%増を記録した。

## ■農業への投資が増加傾向

2009年のカンボジア投資委員会(CIB)による外国直接投資認可額は、前年比46.2%減の58億5,940万ドルと大きく減少した。業種別にみると、観光が39億8,000万

ドル(13件)で1位、以下、農業関連が9億5,810万ドル(19件)、エネルギーが6億6,470万ドル(5件)となっている。国別でみると、中国が8億9,267万ドルと投資認可総額の15%超を占め1位となった。以下、シンガポール(2億7,249万ドル)、ロシア(2億3,466万ドル)、ベトナム(2億1,004万ドル)が続く。日本からの投資は476万ドルにとどまった。しかし、CIBの発表する認可額にはカンボジア開発評議会(CDC)が優遇措置の付与を認可した案件以外の投資案件や経済特区(SEZ)向け投資の認可額が計上されていないため、一部日系企業の投資案件などが含まれていない。なお、今後予定されている外資系企業の大規模投資案件では、韓国の現代自動車が地場企業との合弁会社によりタイ国境に近いコックンSEZ(経済特区: Special Economic Zone)でカンボジア初となる乗用車組立を行う計画がある。

## ■進む投資環境の整備と日系企業の進出

現在、カンボジアへの企業進出の受け皿となるSEZの整備が進んでいる。SEZは全国21ヵ所で認可され、うち8箇所が2010年7月時点で稼働している。その中で特に、(1)プノンペン郊外のプノンペンSEZ、(2)南部港湾都市シハヌークビル港SEZ、(3)ベトナム国境に近接する東南部ババットでのマンハッタンSEZおよびタイセン・ババットSEZへの企業進出が注目されている。

プノンペンSEZは、2006年4月に設立された経済特区で、現在16社が入居契約済みとなっている。タイガーウィング、グリーンサークル(いずれも婦人用革靴を製造中)、味の素カンボジア(2010年9月より本格生産開始予定)、ヤマハモーターカンボジア(自動二輪組み立て工場を建設予定)の日系4社を含め、マレーシア、台湾、シンガポールなどの企業が立地している。シハヌークビル港SEZは、カンボジア唯一の国際深海港に隣接するSEZで、日本の有償資金協力によって整備が進められている。カン

ボジア政府は、港に隣接するという立地から輸出志向型産業の進出を期待している。ベトナム国境沿いの SEZ に進出する外資系企業は、台湾資本の縫製工場や自転車工場、中国系の包装材メーカーなどが中心だが、日系紳士服メーカーであるドーコの縫製工場も稼動している。

このほか、日本との共同インフラ開発プロジェクトである南部経済回廊に対し、日系企業から大きな期待が寄せられている。同構想は、タイ・バンコクからカンボジア・プノンペンを経由でベトナム・ホーチミンを陸路でつなぐ主要国道の整備、および沿線の工業団地などのインフラ開発により、3カ国をまたぐ物流・産業の大動脈を形成しようとするものである。回廊整備を進める上で、最大のボトルネックであったネアックルン橋の建設が2010年6月には、日本の無償資金協力により実施されることが決まり、2015年に完成が予定されている。

カンボジアの業種別外国直接投資<認可ベース>

(単位:100万ドル, 件, %)

	2008年		2009年		
	金額	件数	金額	構成比	伸び率
観光	8,776.3	13	3,980.0	67.9	△ 54.7
農業関連	106.7	19	958.1	16.4	797.7
エネルギー	468.0	5	664.7	11.3	42.0
通信	87.1	1	234.7	4.0	169.5
サービス	1,036.4	2	96.7	1.7	△ 90.7
縫製	148.8	23	90.1	1.5	△ 39.4
履物	11.8	7	28.1	0.5	139.1
飼料	5.8	2	21.7	0.4	275.0
鉱業	4.7	6	11.9	0.2	153.9
食品加工	3.7	2	11.9	0.2	225.3
医薬・化学	4.3	2	6.3	0.1	45.5
建材	2.3	1	4.9	0.1	117.5
タバコ	2.3	1	2.9	0.0	26.7
プラスチック	3.9	1	2.4	0.0	△ 38.3
建設	98.2	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
ヘルス・サービス	65.0	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
輸送	5.5	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
合計(その他含む)	10,891.1	100	5,859.4	100.0	△ 46.2

出所:カンボジア投資委員会。